

岡山県における強度行動障害支援の枠組み(令和5～7年度)

岡山県自立支援協議会(強度行動障害支援部会)

令和3年度:部会の立ち上げ

令和4年度:県内の実態調査・分析、支援策の検討

1.強度行動障害への支援体制整備事業(令和5～7年度)

県民や支援者を対象とした
理解促進事業

強度行動障害支援 コンサルテーション事業

- ・相談窓口の設置
(おかやま発達障害者支援センター)
- ・コンサルテーションチームの派遣(PDCAサイクル)

支援者等の資質向上研修事業

- ・管理者向け研修 (R7.2.20実施予定)
- ・強度行動障害支援者養成フォローアップ研修 (年間4回)

強度行動障害
支援者養成研修
(基礎)

強度行動障害
支援者養成研修
(実践)

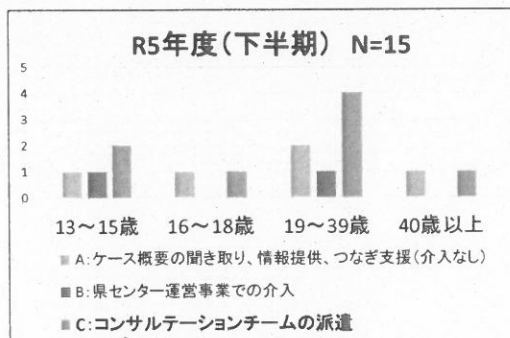
2.強度行動障害実態調査 (R6年度は実施なし)

令和4年度実施された実態調査によって浮かび上がった課題について、より具体的な調査・ヒアリングを実施

強度行動障害支援コンサルテーション事業 実績

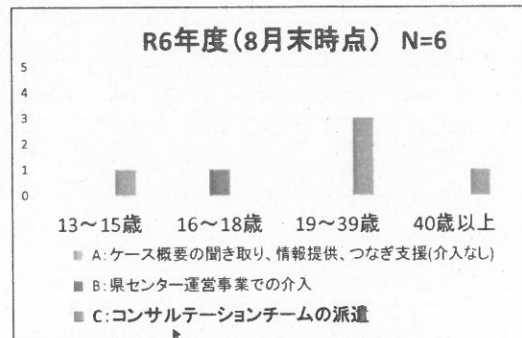
内訳	R5年度 (下半期)	R6年度 (8月末時点)
A ケース概要の聞き取り、情報提供、つなぎ支援(介入なし)	5	0
B 県センター運営事業での介	2	1
C コンサルテーションチームの派遣	8	5
合計(実人数)	15	6

事例の年代と対応



コンサルを希望した対象機関の内訳

支援学校(2)、放デイ(1)
就労B型(1)、生活介護(2)
入所施設(1)、精神科病院(1)



コンサルを希望した対象機関の内訳

支援学校(1)、生活介護(1)
入所施設(1)、精神科病院(2)

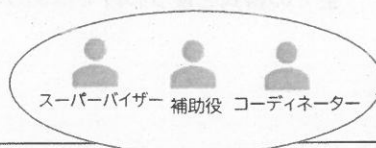
現場で直接支援を提供している支援チームの支援力向上を応援します

1) コンサルテーションでは
『行動問題によって示されている
本人の不安やメッセージ』と
『個人の特性と環境面との
ギャップ』に注目していきます

『本人ができること・わかること・
強み』を支援のヒントに
『本人の特性に合わせた関わり、
環境面の点検、調整や工夫』に
ついて考えていきます

2) コンサルチームには
強度行動障害支援の経験者が
加わっています

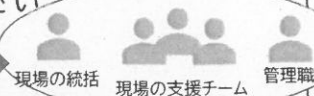
現場の支援チームの疲弊感や
困り感をふまえながら
時には経験談もお伝えしながら
皆さんと一緒に検討を行いたいと
考えています



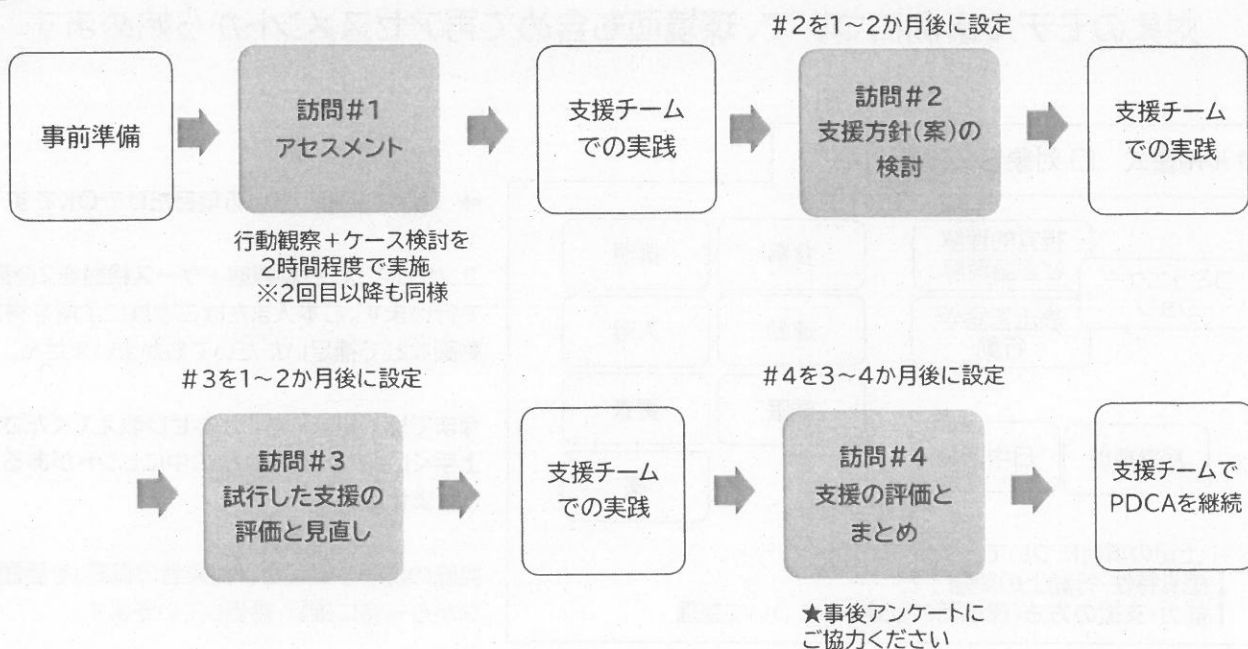
3) コンサル事業の枠組みは
4回シリーズを基本としています

コンサルチームは、
現場を統括されている方が中心
となってPDCAをまわすことを
サポートします

コンサルが終わった後も
支援チームで支援の評価や
見直しを続けていくきっかけに
してください



2 コンサルテーションの流れ



3 事前の準備

準備①

コンサル利用にむけた 組織内の調整

□ 担当者だけでなく、管理職の了解の上、
組織としてのコンサル依頼

□ 訪問当日は、担当者だけでなく
支援を統括する立場の方も同席

例：サビ管、児発管、
特別支援教育Co.、教頭など

準備②

対象者に関する 情報整理

1回目の訪問までに提出いただく書類

□ 対象者の概要(事業所情報も含む)

□ (児の場合) 強度行動障害判定基準表
(者の場合) 行動関連項目

□ この他、ABC記録など、事前に記録を
お願いする場合があります

※各書式は一括してお送りします
※必要に応じて各種書式を使いますので
全ての書式を使うわけではありません

➡ できれば担当者だけで評価するの
ではなく、短時間でもよいので支援
チームによるミーティングの機会を
もち、各スタッフが把握している情報
や見立てを持ち寄る機会にしてみてください



現場の統括

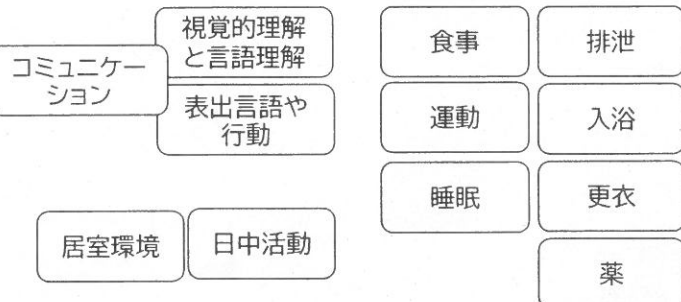


現場の支援チーム

4 コンサルテーションの取組内容(その1)

対象のモデル事例について、環境面も含めて再アセスメントから始めます

コンサル用書式 □ 対象者の概要 より



↑ 上記の項目について
【感覚特性・行動上の問題】と
【能力・支援の方法(環境面の配慮)】について整理

➡ 現状で把握している項目だけでOKです

コンサルでは、行動観察+ケース検討を2時間程度
で行います。ご本人またはご家族に了解を得た上で
動画などで補足いただいてもかまいません。

今まで取り組まれたこともぜひ教えてください
上手いかなかった支援の中にヒントがあるかも
しれません。

実際の様子や環境と、「対象者の概要」を話題にあげ
ながら一緒に確認・評価していきます

5 コンサルテーションの取組内容（その2）

コンサルのプロセスは、事業所やケースによって様々です
状況に合わせて、以下のテーマをコンサルチームが提案させていただきます

※必要に応じて各種書式を使いますので全ての書式を使うわけではありません

選択テーマ A

行動問題が起きる場面状況を整理してみる

コンサル用 書式

- ☐ ABC記録(行動の前後の状況や関わり)
- ☐ スキャッタープロット
(行動が見られる場面・時間帯や頻度・強度)

選択テーマ B

障害特性と支援環境とのミスマッチがないか点検してみる

コンサル用 書式

- ☐ 氷山モデルシート
(例:〇〇の特性があるのに□□な関わりや環境となっている)
- ☐ 特性確認シート(自閉スペクトラム症の特性) ※強行研修版
- ☐ 環境確認シート ※強行研修版

選択テーマ C

行動の意味を推測して支援方針をたててみる

コンサル用 書式

- ☐ FAST(機能分析スクリーニングツール)
- ☐ ストラテジーシート(事前の環境調整と事後の関わり)

選択テーマ D

支援の手順を整理してみる

コンサル用 書式

- ☐ 支援手順書
(例①:工程を細分化して評価するときに活用)
(例②:コアメンバーからチームに取組を広げるときに活用)

6 コンサルテーションの取組内容（その3）

選択テーマ E

『個別の特性に合った環境整備(構造化)について 個別の環境／集団の環境を点検してみる』

<個別の環境について>

- ☐ 本人が集中できたり安心できたりする場所や動線
- ☐ 本人が分かる素材(形態)や情報量のスケジュール
- ☐ 本人が自分で活動の始まりと終わりが分かる仕組み(ワークシステム)
- ☐ 本人が活動内容を選ぶことができる仕組み
- ☐ 本人が活動したことの達成感をどのように得られるのかの工夫

参考:コンサル用書式 構造化評価シート

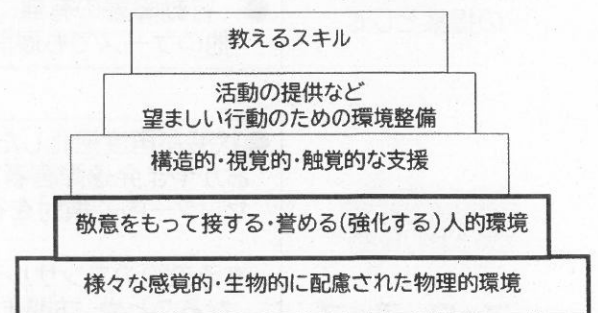
<集団の環境について>

- ☐ 課題となる場面や時間帯の事業所の環境

例: 日中活動の内容、人員体制、全体のルールなど

参考:コンサル用書式 対象者の概要(4ページ)「日中活動(タイムテーブル)」

本人が安心して過ごす・活動するために
どの段階の支援から取り組むか



7 コンサルテーションで取り組む内容（その4）

選択テーマF

『環境・状況(休けい時間やすきま時間)』への
アプローチを考えてみる

- 見通しのない時間帯は、本人にとっては「不安な」時間帯
➡ 休けい時間や、すき間の時間帯こそ、流れや枠組みをつくり
何をして過ごすかが分かることで安心して過ごせるよう支援する
- やりたいことや興味の幅が狭く、活動のレパートリーも乏しいために
不適切な行動による退屈しのぎになり、制止や注意を受けがち
➡ 本人の強み(ストレングス)のリサーチや活動メニューの試行などに
取り組む(右の表を参照)
参考:コンサル用書式「強み確認シート」

★ 強み(ストレングス)とは

「支援をするときに活かせるような本人の能力や環境」

「わかること・できること」

例) はさみを使うことができる
ペットボトルのふたを開けることができる
物がなくなったら終わりということは分かる

「好きなこと」「好きな刺激」「やりたがること」

(遊び方、過ごし方、キャラクター、やりたがること)

例) バランスボールで揺れる、〇〇のキャラクター
ぴったりはまる・色を合わせるなどの自立課題

「得意なこと」「見方を変えれば得意かもしれないこと」

例) 目的が分かれば待つことができる
変更は苦手だがいつもと同じことはできる

8 コンサルテーション後のフォローアップと取組の汎化に向けて

強度行動障害支援が
事業所に根付くため
の提案として

- 事業所内外で、事業所内でモデル事例への実践について報告・共有の機会を
もってみてください
- 行動問題が軽減したら、改善したら終わりではなく
なぜうまくいったのかを振り返ることで、その後の予防的な支援につながります
- 行動障害の有無に限らず、生活の分かりやすさ・不安の解消といった視点で
他のケースでも展開してみてください(事業所全体の取組への汎化)

フォローアップ

- 状態が再度悪化した場合などのご相談は
おかやま発達障害者支援センター(☎086-275-9277)にご連絡ください
センター内で検討を行なった上で後日返答させていただきます

※その後のコンサルテーションは、コンサルチームではなく、支援センター職員のみになることや、訪問またはオンラインのいずれかになることなどご了承ください

※別ケースの新たなご相談についても同様です。

令和 6 年度 強度行動障害支援フォローアップ研修
開催要項

1. 目的 強度行動障害支援者養成研修を修了した受講者が、現場で実際に支援している利用者をモデルに研修で学んだ考え方やツールを活用し PDCA を回しながら支援を展開し、支援の状況を研修会の中で協議することで、強度行動障害のある人への適切な支援を学ぶ
2. 主催 岡山県子ども・福祉部障害福祉課、おかやま発達障害者支援センター
3. 日時 第 1 回 令和 6 年 7 月 23 日 (火) 13:30～16:30 (13:00 より受付)
第 2 回 令和 6 年 9 月 25 日 (水) 13:30～16:30 (13:00 より受付)
第 3 回 令和 6 年 11 月 27 日 (水) 13:30～16:30 (13:00 より受付)
第 4 回 令和 7 年 1 月 23 日 (木) 13:00～16:00 (12:30 より受付)
* 原則 4 回を通してご参加ください (実際に参加者の支援現場で支援を展開しながら、その結果を持ち寄り研修内で協議を行います)
* モデル事例につきましては、家族の同意等ご配慮をお願いします
4. 会場 第 1～3 回：おかやま西川原プラザ (岡山市中区西川原 255)
第 4 回 : ピュアリティまきび (岡山市北区下石井 2-6-41)
5. 対象 強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修・実践研修) 修了者
6. 内容 別紙の通り
7. 定員 6 事業所 12 名 (1 事業所 2 名ずつ)
* 現場担当者及びサビ管・児発管等の現場責任者のペアでご参加ください
* 定員を超えた場合は、条件を勘案し、可否を決定させていただきます。
(参加の可否については、締切り後直接ご連絡いたします。)
* 各回 4 名程度のオブザーブ参加を予定しています
8. ファシリテーター おかやま発達障害者支援センター
岡山県知的障害者福祉協会 発達障害対応委員会 等
9. 参加費 無料
10. 申込方法 グーグルフォーム
<https://forms.gle/GELFg6E2DQuDmQWy8>
グーグルフォームの利用が難しい場合、下記の項目を明記の上、メールにてお申込みください。
①所属 ②氏名 ③職名 ④従事年数 ⑤強度行動障害支援者養成研修受講年度
⑥研修資料を送付するメールアドレス ⑦連絡先 ⑧備考 (主催者側に伝えたいことがあればご記入ください) ※②～⑤につきましてはお 1 人ずつ記入ください
11. 締め切り 7 月 5 日 (金)

〈問い合わせ〉

おかやま発達障害者支援センター 担当：新谷・池内・山本・小松原
TEL : 086-275-9277 Mail : asdshien@po.harenet.ne.jp

別紙

内容

※第1回目当日に以下の資料を作成・ご持参ください

- ・対象利用者の概要
- ・冰山モデル

	講義	演習	次回までの課題
第1回 7月23日 (会場) 西川原プラザ 第6会議室	・冰山モデル修正のポイント ・行動の意味と手立てを考える～スキャッタープロット・ABC記録～	・モデル事例の共有 ・冰山モデルの修正	・冰山モデル（修正版）を完成させる ・スキャッタープロットとABC記録の記入
第2回 9月25日 (会場) 西川原プラザ 第6会議室	ストラテジーシート 作成のポイント	ストラテジーシート の作成	ストラテジーシートを 完成させ、支援を実際に 試してみる
第3回 11月27日 (会場) 西川原プラザ 第6会議室	支援手順書の作成の ポイント	・ストラテジーシートに基づいた実践報告・意見交換 ・ストラテジーシートの修正 ・支援手順書の作成	支援手順書を完成させ 支援を実際に試してみる
第4回 1月23日 (会場) ピュアリティ まきび 中会議室	全体発表の進め方	取組発表	

* 次回までの課題は毎回当日の1週間前までにメールにてご提出ください

* ご希望の事業所には必要に応じて研修期間内にファシリテーター等で訪問（コンサルテーション）させていただくことも可能です。

令和 6 年度 強度行動障害支援管理者向け研修 〈企画案〉

・研修の目的

強度行動障害のある人の受け入れが可能な事業所の増加を図るため、事業所としての支援方針や環境整備等に関与する役職者を対象に、人材育成を中心とする体制整備や環境整備を推進する。

・開催日時

令和 7 年 2 月 20 日(木) 13:30~16:00

・会場

ピュアリティまきび (〒700-0907 岡山市北区下石井 2-6-41)

定員 100 名

・対象者

福祉・教育・医療領域における管理者、役職者
(各施設・事業所、精神科病院、特別支援学校等)

・講師

西田 武志 氏(社会福祉法人南山城学園 障害者支援施設 翼 施設長)

・実践発表 登壇者

①社会福祉法人 笠岡市社会福祉事業会 障害者支援施設 笠岡学園

②社会福祉法人 P.P.P. 障害者支援施設 P.P.P.BB チャレンジャー!

(令和 5 年度強度行動障害支援フォローアップ研修 受講施設)

当日タイムテーブル

13:30	開会挨拶	岡山県子ども・福祉部障害福祉課
13:35	<u>基調講演</u> 「事業所内の強度行動障害支援について (仮)」	社会福祉法人南山城学園 障害者支援施設 翼 施設長 西田 武志 氏
14:45	休憩	
14:55	<u>情報提供</u> コンサルテーション事業、フォローアップ研修について(仮)	おかやま発達障害者支援センター
15:05	<u>実践報告</u> 実践報告① (仮)	社会福祉法人 笠岡市社会福祉 事業会 障害者支援施設 笠岡学園
15:25	実践報告② (仮)	社会福祉法人 P.P.P. 障害者支援施設 P.P.P.BB チャ レンジャー!
15:45	講 評	西田 武志 氏
15:55	閉会挨拶	おかやま発達障害者支援センター 所長 新谷 義和
16:00	閉会	